

宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表Ⅲ

1. 施策の目的と目標

□目標とする交通環境	III. ひとや環境にやさしい交通環境を整備する	□目的	超高齢社会の到来や地球温暖化等の環境問題に対応し、持続可能な都市の交通基盤の整備を目指す。			
□施策の体系	(1) 公共交通のバリアフリー化を進める (2) 環境にやさしい交通環境を整備する (3) 徒歩、自転車で安全、快適に通行できる道路を整備する	(4) 公共交通の利用促進策を実施する (5) 利用者に対する支援を行う				
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年(b/c)	進捗評価
	① 人にやさしいバスの導入率	33.4% (H23年度)	46.5% (H27年度見込み)	60.5% (H30年度)	55.2% ⇒ 71.1%	おおむね順調に進捗
	② 市域の温室効果ガス排出量の削減量	市民 2.70t 事業者 145.30t (H15年度)	市民 3.20t (排出量) (H25年度)	市民 2.90t (*) (排出量) (H30年度)	市民 一 ⇒ 90.6%	—

*新計画策定により修正

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

2. 重点施策事業の進捗状況

施策事業名	事業主体	H26年度 実施状況	H27年度 当初予定	H27年度 実施状況	H27年度 評価	H28年度 当初予定
1-① JR岡本駅橋上化・東西連絡通路の新設	宇都宮市	○東西自由道路・橋上駅舎の整備(H26~28) →エレベーター、エスカレーター(上り専用), 多機能トイレ等	○東西自由通路・橋上駅舎の整備(H26~28)	○東西自由通路・橋上駅舎の整備(H26~28)	◎ ・駅周辺整備の事業進捗と連携しながら、東西自由通路・橋上駅舎の整備工事に取り組んでいる。 ・主要な交通結節点である鉄道駅の機能強化を図る重要な事業であり、引き続き関係機関と協議・調整を図りながら、着実に事業を進める必要がある。	○東西自由通路・橋上駅舎の整備(H26~28) →供用開始(7月一部暫定)
1-④ 人にやさしいバスの導入	バス事業者	○ノンステップバスの導入 →11台(延べ129台) ○ユニバーサルデザイン車両の導入 (地域内交通) →4台	○ノンステップバスの導入 →8台 ○ユニバーサルデザイン車両の導入 (地域内交通) →4台	○ノンステップバスの導入 →10台(新規) ○ユニバーサルデザイン車両の導入 (地域内交通) →3台	○ ・ノンステップバス車両数は着実に増加しており、高齢者や障がい者等の円滑な移動や乗降時間の短縮、定時性向上に寄与している。 ・地域内交通におけるユニバーサルデザイン車両の導入については、1地区で導入を見合せたことから、3台の導入となった。 ・誰もが利用しやすい公共交通の実現を目指し、引き続き、バス事業者、地域、行政が連携を図り、ノンステップバスやユニバーサルデザイン車両の導入を推進していく必要がある。	○ノンステップバスの導入 →8台 ○ユニバーサルデザイン車両の導入 (地域内交通) →3台
4-① モビリティ・マネジメント(MM)の実施	バス事業者 地域住民 栃木運輸支局 栃木県 宇都宮市	○学校MM →「乗り方教室」の実施:城山中央小、海道小、東小、桜小 ○エコ通勤の推進 →県内統一行動週間の実施:115事業者の参画、タイアップキャンペーン(バス協会主催)の実施 ○運転免許返納促進MM →交通安全教室と合わせた公共交通や外出支援事業のPRの実施 ○バス路線新設社会実験MM →ニューズレター・無料乗車券の配布、ニーズ調査の実施(約1.8万世帯) ○地域内交通MM →体験乗車会の実施、利用方法案内チラシの配布等 ○転入者MM →転入手続者・来街者等へのバスマップの配布(1.9万部), HP掲載 ○広報紙によるPR →2月号特集「公共交通で出掛けよう」 →毎月「暮らしと交通のいい関係(LRT)」 (約18万世帯へ配布)	○学校MM ○エコ通勤の推進 ○運転免許返納促進MM ○バス路線新設社会実験MM ○地域内交通MM ○転入者MM ○広報紙によるPR	○学校MM →「乗り方教室」の実施:城山中央小、海道小、陽光小、桜小 ○エコ通勤の推進 →県内統一行動週間の実施:146事業者の参画、タイアップキャンペーン(バス協会主催)の実施 ○運転免許返納促進MM →免許返納者に対する公共交通のPR ○バス路線新設社会実験MM →ニューズレターの沿線自治会配布(4回/年)(約7千世帯) ○地域内交通MM →体験乗車会の実施、利用方法案内チラシの配布等 ○転入者MM →転入手続者・来街者等へのバスマップの配布(2万部), HP掲載 ○広報紙によるPR(約18万世帯へ配布) →2月号特集「公共交通をつかってみませんか」 →毎月「乗ってみよう地域内交通」 ○LRTの導入を見据えたMM →「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」に位置付け	◎ ・様々な対象者に対する積極的な働きかけや全市的な情報発信により、公共交通への理解促進と過度な自動車利用からの意識転換を図っている。 ・モビリティ・マネジメントは、公共交通と自動車が共存した社会の実現を図る上で重要かつ長期的な事業であり、引き続き関係者が連携を図り、公共交通の整備やライフスタイルの節目など、公共交通利用への関心が高まる機会を捉えた各種施策を実施するとともに、全市的な情報発信に取り組む必要がある。 ・また、LRTの導入を見据え、11月に策定した「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」に、「地域住民や企業と連携したMM」を位置づけたところであり、今後、効果的な実施手法を検討する必要がある。	○学校MM ○エコ通勤の推進(府内MM) ○運転免許返納促進MM ○地域内交通MM ○転入者MM ○広報紙によるPR ○LRT導入を見据えたMM

3. 施策の評価

4. 取組の方針

◆公共交通のバリアフリー化の推進

- ・岡本駅の東西自由通路の整備やバス事業者と行政の連携によるノンステップバスの導入に取り組み、高齢者や障がい者等の移動の円滑化を図った。

◆公共交通の利用促進策の実施

- ・関係機関や交通事業者等と連携し、小学生を対象とした「バスの乗り方教室」やバス路線新設社会実験路線沿線への「バス通信の配布」など各種モビリティマネジメントに取り組み、市民の公共交通に対する理解促進と過度な自動車利用からの意識転換を図った。

◆公共交通のバリアフリー化の推進

- ・高齢者や障がい者の社会参加の促進や健康寿命の延伸を図るため、引き続き、交通事業者や行政が連携しながら、ノンステップバスやUD車両の導入など、公共交通のバリアフリー化に取り組む。

◆公共交通の利用促進策の実施

- ・持続可能な都市の発展を支えるひとや環境にやさしい公共交通ネットワークの形成を図るために、引き続き、各種モビリティマネジメントに積極的に取り組む。
- ・特に、LRT導入に伴う公共交通ネットワークの再編を見据え、JR宇都宮駅東部地域における計画的なモビリティマネジメントを検討する。

